

(3) 運動・スポーツ指導に関する意識

3-1 運動・スポーツを指導する際に参考にしているもの

子どもに運動・スポーツを指導する際に指導者が参考にしているものをたずねたところ、「自分のスポーツ経験」が73.1%と最も多く、7割以上の指導者が自らの運動・スポーツ活動の経験をもとに指導していることが明らかとなった。次いで「取得後に開催される資格に関する研修会等」が53.7%、「専門書や指導参考書等」が52.6%、「機関誌（スポーツジャスト）や資格取得時の講習のテキスト」が52.0%と半数以上を占めた（表3-1、図3-1）。

性別にみると、女性が男性よりも参考にしている割合が高かった項目は「他の指導者の実践内容」と「指導者同士の自主的な勉強会等」であり、女性のほうが指導者同士での交流を自らの指導の参考にしていることがみてとれる（表3-1、図3-2）。

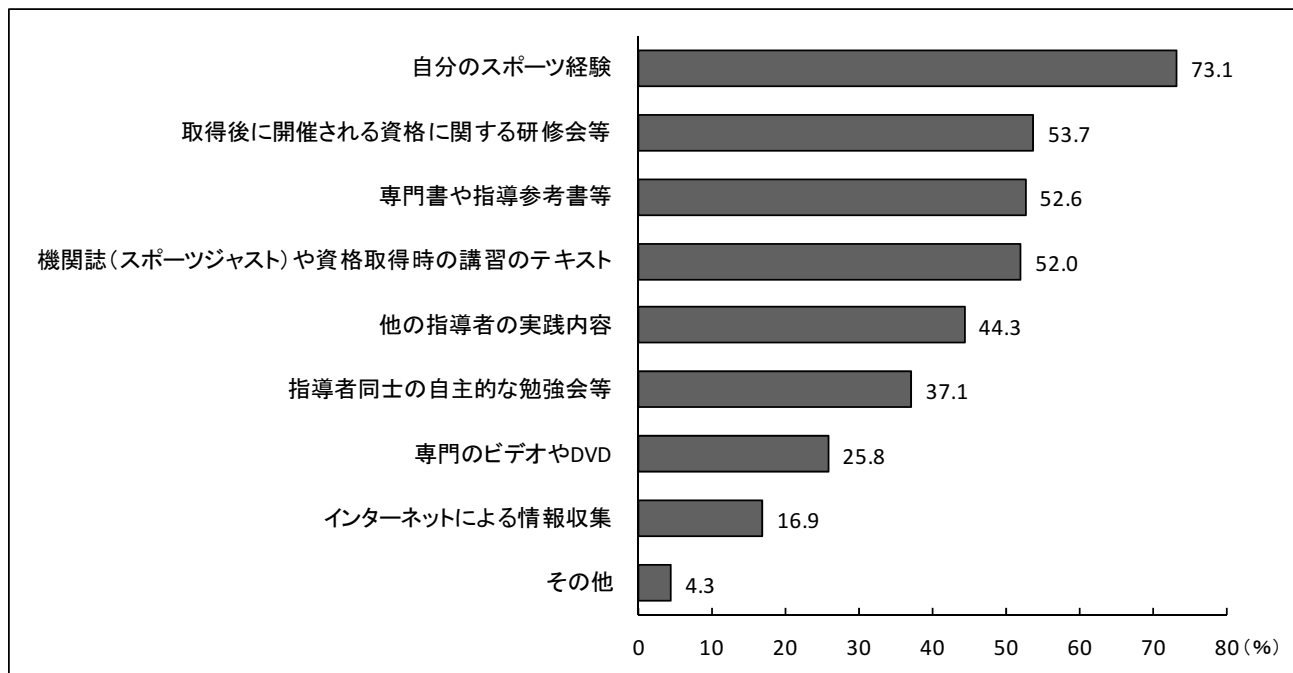
年代別にみると、指導しているものとして上位にあがった4項目のうち、30代以下が参考にしていると回答したものは「取得後に開催される資格に関する研修会等」7.4%のみであった。つまり、これらの項目は年代が高い指導者で割合が高いといえる（図3-3）。30代以下は「他の指導者の実践内容」が44.5%、「インターネットによる情報収集」が22.2%と、他の年代に比べてこの2項目が突出していた。また、「自分のスポーツ経験」という回答はみられず、情報収集の方法が他の年代と違う点が特徴的である。

また、「その他」として、「子どもの実態を見てプログラムを作成」「子どもとの触れ合いから状況を把握」や、「他の分野（スポーツ以外）の指導内容」「心理学の内容」などの回答がみられた（表3-2）。

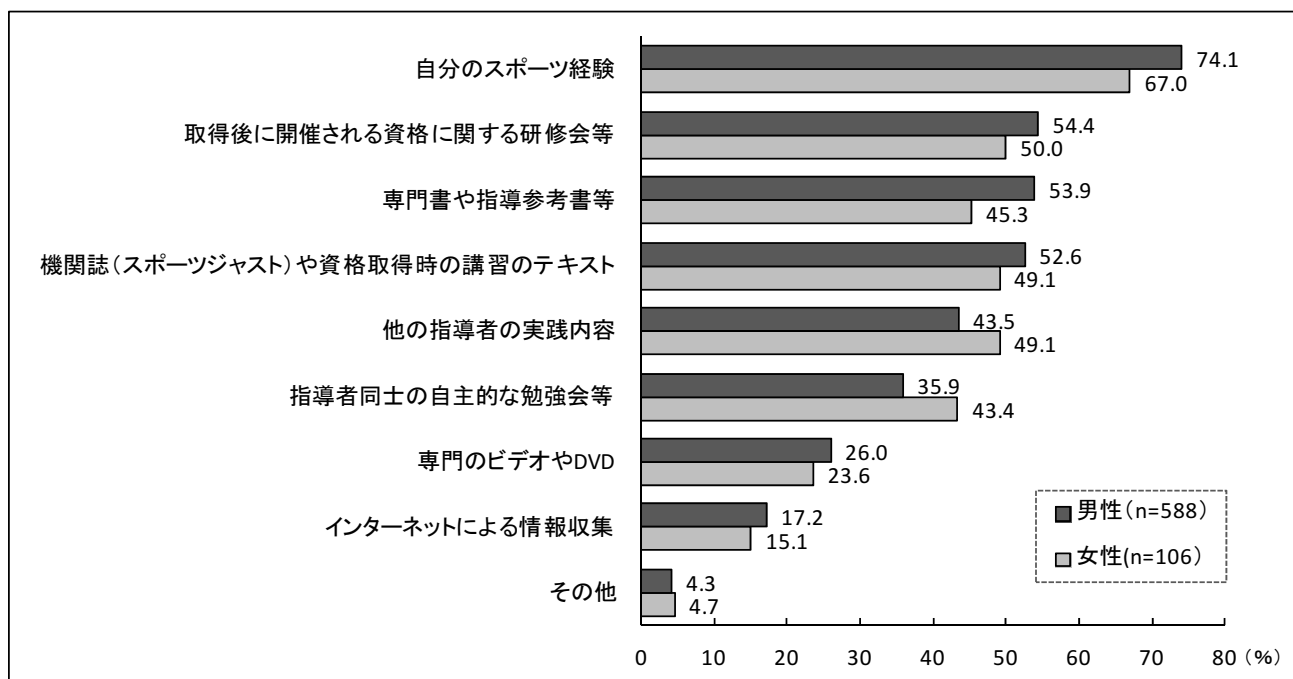
【表3-1】運動・スポーツを指導する際に参考にしているもの（全体・性別）

(%)					
順位		全体 (n=698)	男性 (n=588)	女性 (n=106)	(男性-女性)
1	自分のスポーツ経験	73.1	74.1	67.0	7.1
2	取得後に開催される資格に関する研修会等	53.7	54.4	50.0	4.4
3	専門書や指導参考書等	52.6	53.9	45.3	8.6
4	機関誌(スポーツジャスト)や資格取得時の講習のテキスト	52.0	52.6	49.1	3.5
5	他の指導者の実践内容	44.3	43.5	49.1	-5.6
6	指導者同士の自主的な勉強会等	37.1	35.9	43.4	-7.5
7	専門のビデオやDVD	25.8	26.0	23.6	2.4
8	インターネットによる情報収集	16.9	17.2	15.1	2.1
9	その他	4.3	4.3	4.7	-0.4

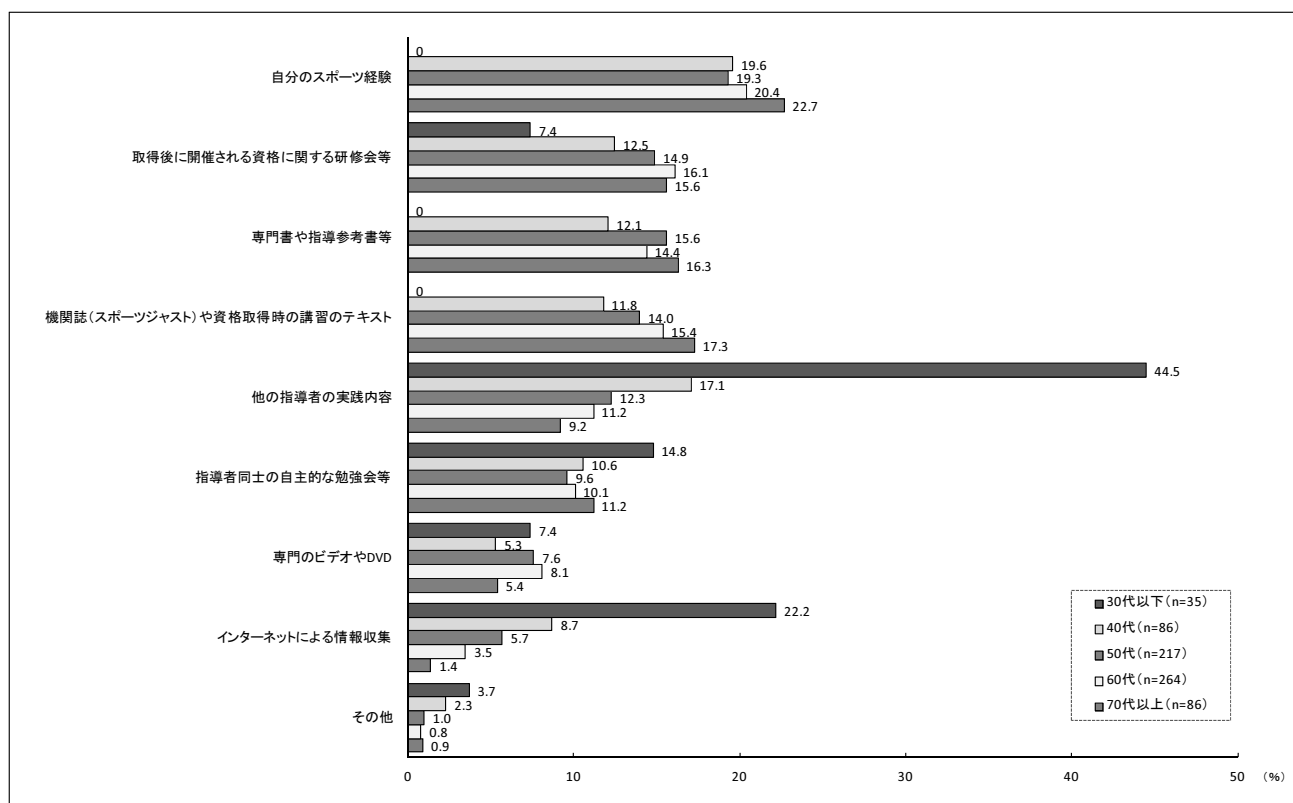
【図 3-1】 運動・スポーツを指導する際に参考にしているもの（全体）



【図 3-2】 運動・スポーツを指導する際に参考にしているもの（性別）



【図 3-3】 運動・スポーツを指導する際に参考にしているもの（年代別）



【表 3-2】 運動・スポーツを指導する際に参考にしているもの（自由回答）

年齢	性別	指導種目	回答
53歳	男性	サッカー	JFA指導書
66歳	男性	サッカー	いろいろなスポーツの観戦
66歳	男性	サッカー	いろいろなスポーツの観戦
57歳	男性	サッカー 軟式野球 バasketボール	県の競技会主催による講習会など
78歳	女性	軟式野球	夫の指導
41歳	男性	バレーボール ソフトボール	保護者会議などの勉強会
54歳	男性	バレーボール ドッジボール	子どもの実態を見てプログラムを作っている
37歳	男性	剣道	師の教え
41歳	男性	剣道	競技連盟主催の研修会
40歳	男性	複合種目 柔道	スポーツ種目ごとの研修
41歳	女性	複合種目	認定員養成講習会で講師をする際、受講者からの情報収集
52歳	男性	複合種目 バasketボール ソフトボール	TV等
48歳	男性	空手道	少林寺流空手道宗家保蔵代による講習会、総本山における研修
63歳	女性	空手道	自分なりに考えて試してみる
64歳	男性	空手道	上級指導者の指導
66歳	男性	空手道	スポーツの講習会に参加する指導者の生の声
69歳	男性	Basketボール	志、哲学者関係、理念等の自学書からの考え方等
59歳	男性	ソフトボール	他の分野(スポーツ以外)の指導者の実践内容
41歳	男性	陸上競技 バドミントン 卓球	小学校の体育部会の研修会
51歳	女性	陸上競技 水泳 バドミントン	実際の子どもたちとのふれあいの中で状況を把握
36歳	男性	スキー	所持資格を活かした指導
44歳	男性	少林寺拳法	学校や他の仕事でヒントになるものならなんでも
59歳	男性	少林寺拳法	少林寺拳法の指導者養成コースでの学習
63歳	男性	バドミントン	海外の出版物
62歳	女性	体操	メディアの良い点を参考にしている
63歳	男性	硬式野球	プロ・大学・高校等の監督・コーチと深く関わり、実践の勉強を受ける
51歳	男性	不明	試合
76歳	男性	不明	教職課程「心理学」の内容を参考している
不明	男性	不明	諸外国のスポーツ指導方法

3-2 子どもの運動・スポーツ指導への期待

子どもの運動・スポーツ指導において期待している効果について「とても当てはまる」「少し当てはまる」「どちらでもない」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」の5件法で回答を求めた。

表3-3は、子どもの運動・スポーツの指導において期待している効果について「とても当てはまる」「少し当てはまる」の回答をあわせた割合を示したものである。

「学校での体育の成績向上に役立つ」を除く全ての項目を8割以上の者が選択しており、指導者は子どもの運動・スポーツ指導においてさまざまな効果を期待していることがうかがえた。

性別にみると、男性が女性よりも期待している割合が高かったのは「競技力が向上する」「学校での体育の成績向上に役立つ」のみであった。また、女性は「コミュニケーション能力を養う」「運動の楽しさを味わうことができる」「運動に進んで取り組む姿勢を養う」において男性よりも5ポイントから6ポイント以上高い割合を示した。

年代別にみると、「30代以下」「40代」といった比較的年代が若い指導者のほうが強く期待している効果も存在した。図3-4から図3-6は、子どもの運動・スポーツを指導において期待している効果について「とても当てはまる」と回答し、より強い期待を抱いている者の割合を示したものである。「精神面が鍛えられる」ことに期待している者は「30代以下」が60.0%、「40代」48.8%、「50代」38.2%、「60代」41.3%、「70代以上」41.8%であった。また「コミュニケーション能力を養う」ことに期待している者は「30代以下」が45.7%、「40代」55.8%、「50代」37.3%、「60代」37.9%、「70代以上」39.5%であった。さらに、「仲間ができる」ことに期待している者は「30代以下」が80.0%、「40代」77.8%、「50代」72.5%、「60代」71.1%、「70代以上」68.5%であった。これら3項目の結果から、「30代以下」「40代」といった比較的年代が若い指導者は子どもの運動・スポーツ指導において体力向上のみならず、「しつけ」や「対人関係」といった多くの期待を寄せていると考えられた。

【表 3-3】子どもの運動・スポーツ指導において期待している効果
(全体・性別・年代別)

(%)

	全体 (n=698)	男性 (n=588)	女性 (n=106)	(男性-女性)
礼儀が身につく	94.2	94.0	95.3	-1.3
精神面が鍛えられる	89.6	88.8	92.4	-3.6
競技力が向上する	82.9	83.1	81.1	2.0
学校での体育の成績向上に役立つ	65.5	65.5	65.1	0.4
コミュニケーション能力を養う	88.9	87.7	94.3	-6.6
運動の楽しさを味わうことができる	87.2	86.4	91.5	-5.1
運動に進んで取り組む姿勢を養う	87.2	86.4	91.5	-5.1
仲間ができる	96.3	96.0	97.2	-1.2
基本的な運動能力を身につける	91.3	90.6	93.5	-2.9
健康な身体を育む	94.4	93.8	97.2	-3.4

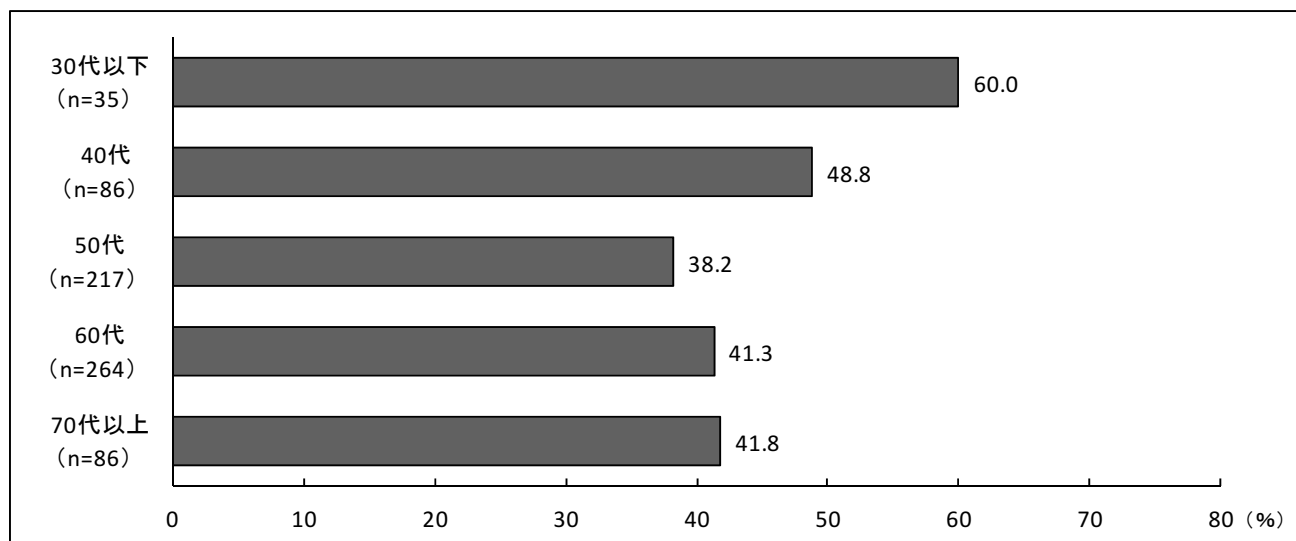
※「とても当てはまる」「少し当てはまる」の回答をあわせた割合

(%)

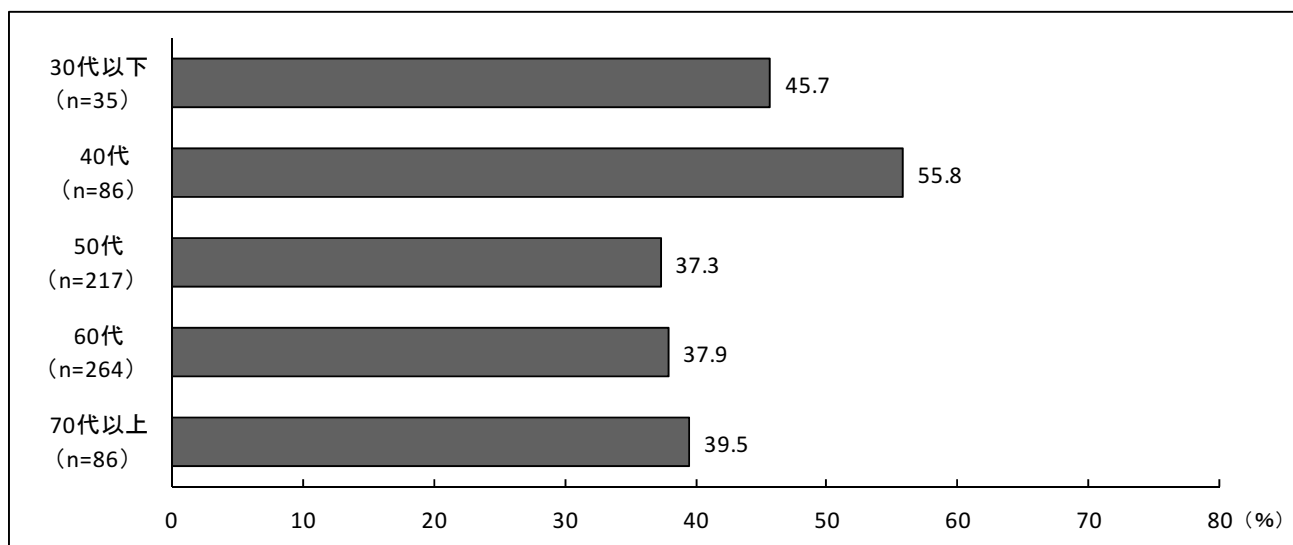
	30代以下 (n=35)	40代 (n=86)	50代 (n=217)	60代 (n=264)	70代以上 (n=86)
礼儀が身につく	97.1	96.4	92.7	94.6	96.4
精神面が鍛えられる	97.1	91.8	89.9	87.1	91.8
競技力が向上する	71.3	79.0	82.5	85.5	87.1
学校での体育の成績向上に役立つ	51.4	65.0	64.6	70.4	61.6
コミュニケーション能力を養う	97.1	89.5	89.9	88.2	83.7
運動の楽しさを味わうことができる	97.1	90.6	92.7	91.2	92.9
運動に進んで取り組む姿勢を養う	85.8	87.2	87.2	88.6	87.2
仲間ができる	94.2	97.6	95.5	96.5	97.6
基本的な運動能力を身につける	88.5	96.5	91.7	90.9	88.3
健康な身体を育む	94.2	98.8	92.7	95.4	93.0

※「とても当てはまる」「少し当てはまる」の回答をあわせた割合

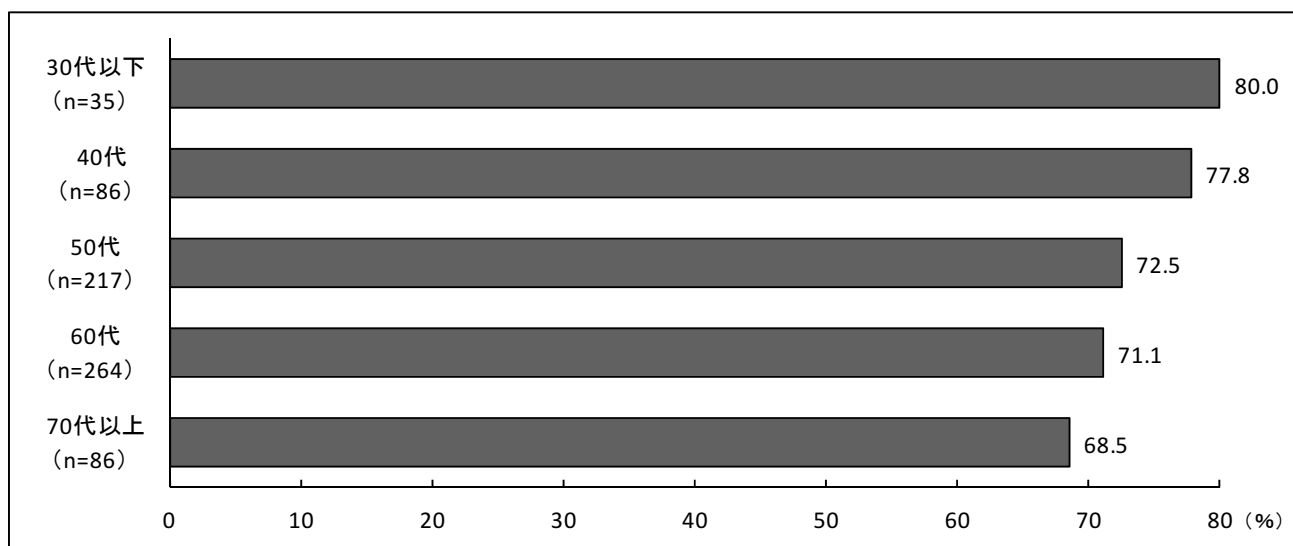
【図 3-4】「精神面が鍛えられる」を選択した割合 (年代別)



【図 3-5】「コミュニケーション能力を養う」を選択した割合（年代別）



【図 3-6】「仲間ができる」を選択した割合（年代別）



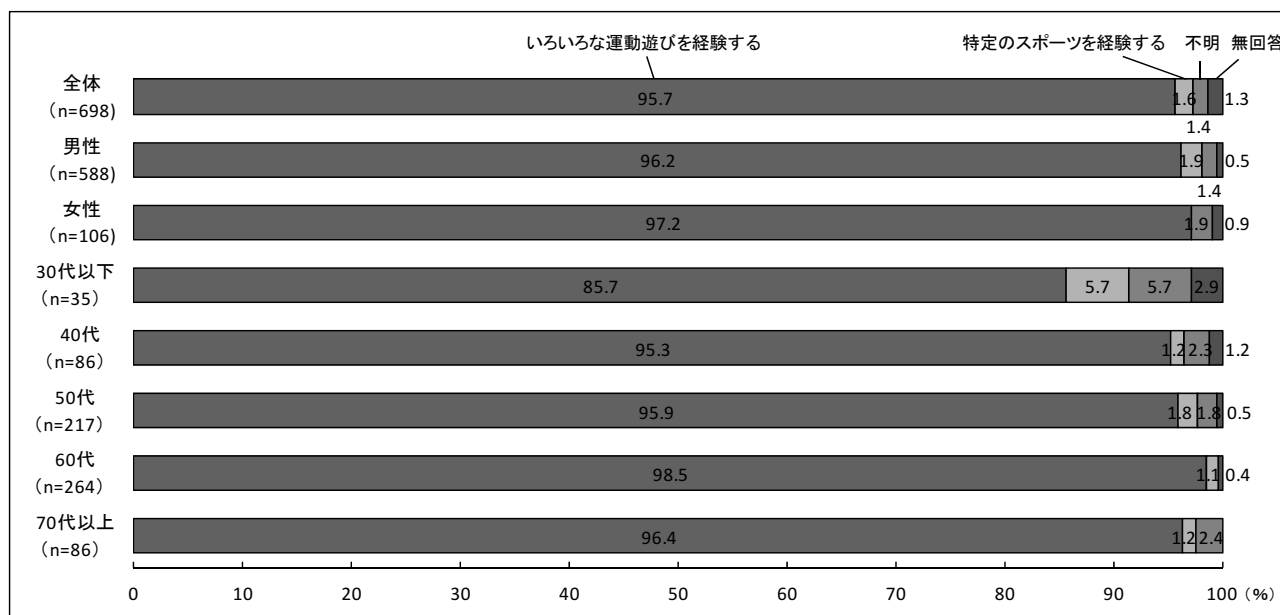
3-3 子どもの運動能力向上・運動指導に関する考え

子どもの運動能力を高めるにはどうしたら良いと思うかたずねたところ、「いろいろな運動遊びを経験する」95.7%、「特定のスポーツ活動を経験する」1.6%という回答が得られ、ほとんどの指導者が子どもの運動能力を高めるにはいろいろな運動遊びを経験することの重要性を認識していた（図3-7）。

性別にみると、男女ともほとんどの指導者が「いろいろな運動遊びを経験する」と回答した。また、「特定のスポーツ活動を経験する」と回答した者が男性には1.9%存在するのに対し、女性にはみられなかったことが特徴的である。

年代別にみると、30代以下において「特定のスポーツ活動を経験する」と回答した者が5.7%存在したものの、いずれの年代においても、ほとんどの指導者が「いろいろな運動遊びを経験する」と回答した。

【図3-7】子どもの運動能力向上に関する考え（全体・性別・年代別）

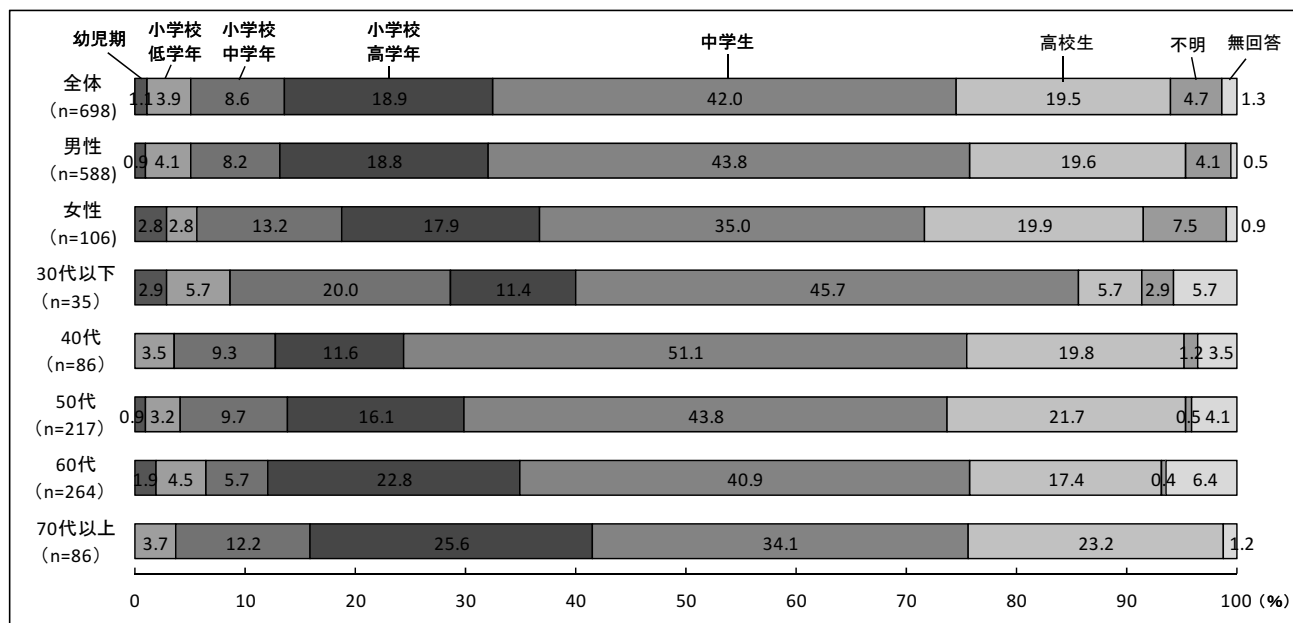


子どもがスポーツ種目をひとつに絞って専門的に行うのに適していると思う時期をたずねたところ、「中学生」が 42.0%と最も多く、次いで「高校生」が 19.5%、「小学校高学年」18.9%、「小学校中学年」8.6%と続いた（図 3-8）。

性別にみると、適していると思う時期に大きな違いはみられないが、「小学校中学年」と回答した男性が 8.2%、女性が 13.2%と、「小学校中学年」と回答した者の割合に若干の違いがみられた。

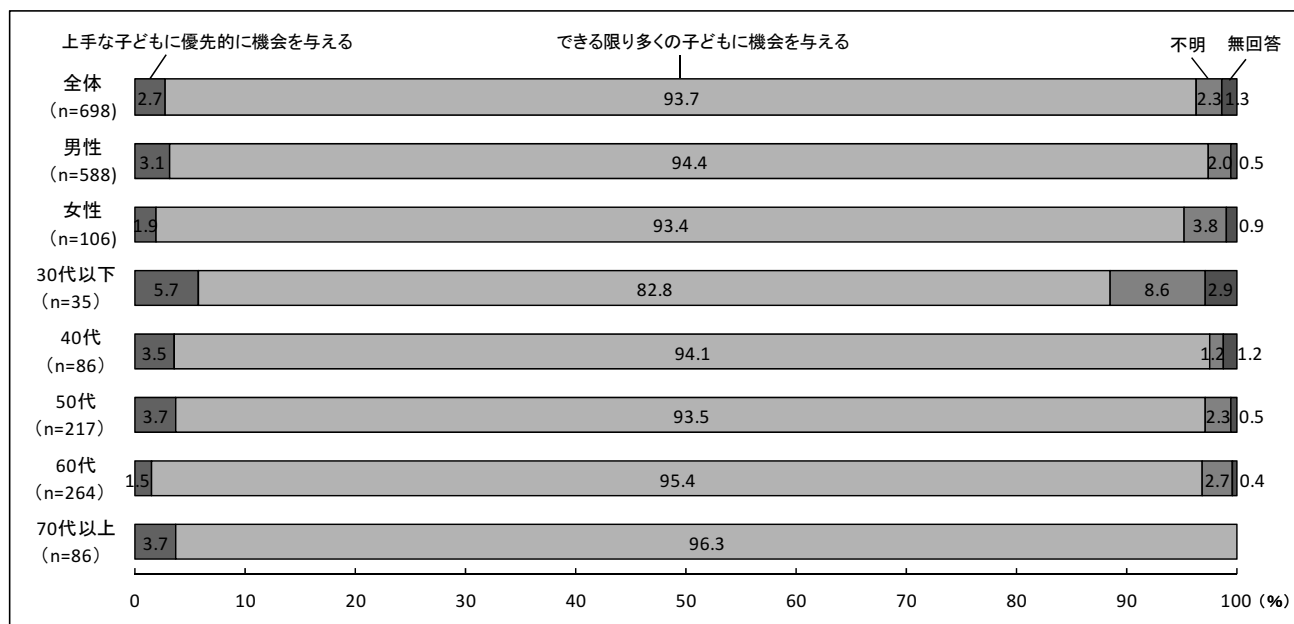
年代別にみると、「幼児期」から「小学校中学年」と回答した者の割合は、「30代以下」が 28.6%と 3割近くを占めているのに対し、他の年代においては 1割程度であった。30代以下の指導者は、幼少年期からスポーツ種目をひとつに絞って行うのが適していると考えていることが示された。

【図 3-8】子どもがスポーツ種目をひとつに絞って行うのに適していると思う時期（全体・性別・年代別）



練習試合を含めた子どもの試合参加についての考えをたずねたところ、「できる限り多くの子どもに機会を与える」93.7%、「上手な子どもに優先的に機会を与える」2.7%という回答が得られた（図 3-9）。性別・年代別にみても割合に大きな違いはみられず、ほとんどの指導者が子どもの試合参加に関しては、できる限り多くの子どもに機会を与えたいと考えていることがわかった。

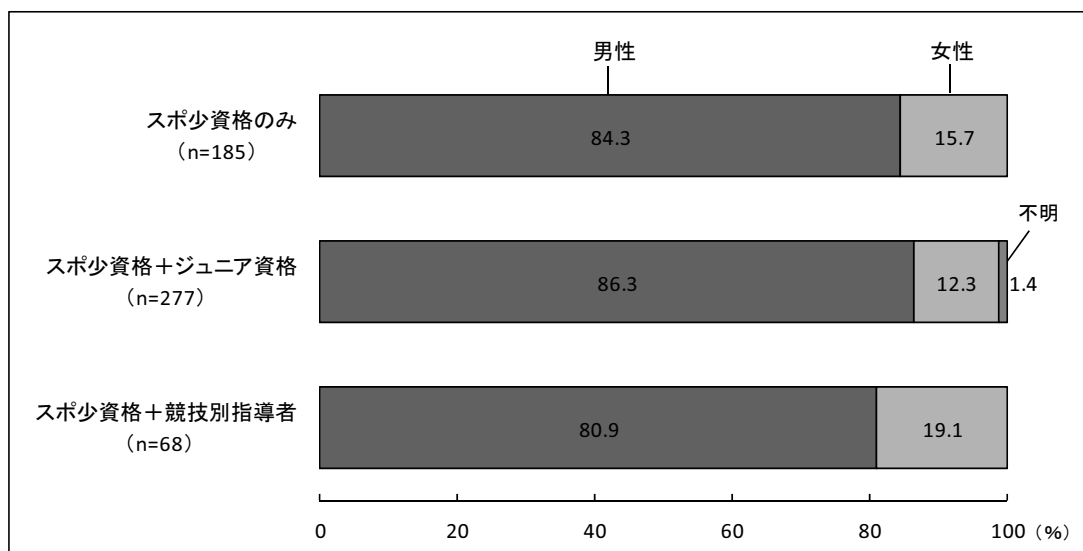
【図 3-9】子どもの試合参加についての考え（全体・性別・年代別）



3-4 取得資格別にみる運動・スポーツ指導に関する意識

子どもの運動・スポーツ指導に期待している効果について取得資格による相違を把握するため、対象者を「スポーツ少年団認定員」もしくは「スポーツ少年団認定育成員」のみを取得している群（以下「スポ少資格のみ」と記す）と、スポーツ少年団資格に加え、「少年スポーツ指導者」もしくは「ジュニアスポーツ指導員」を取得している群（以下「スポ少資格+ジュニア資格」と記す）、スポーツ少年団資格に加え、「競技別指導者」を取得している群（以下「スポ少資格+競技別指導者」と記す）に分類した。内訳を性別にみても、どの群も8割以上が男性であり、女性は2割程度であった（図3-10）。また、年代別では「スポ少資格+競技別指導者」において30代以下は存在せず、半数近くが50代であることが特徴的である（図3-11）。

【図3-10】性別にみる取得資格の状況



【図3-11】年代別にみる取得資格の状況

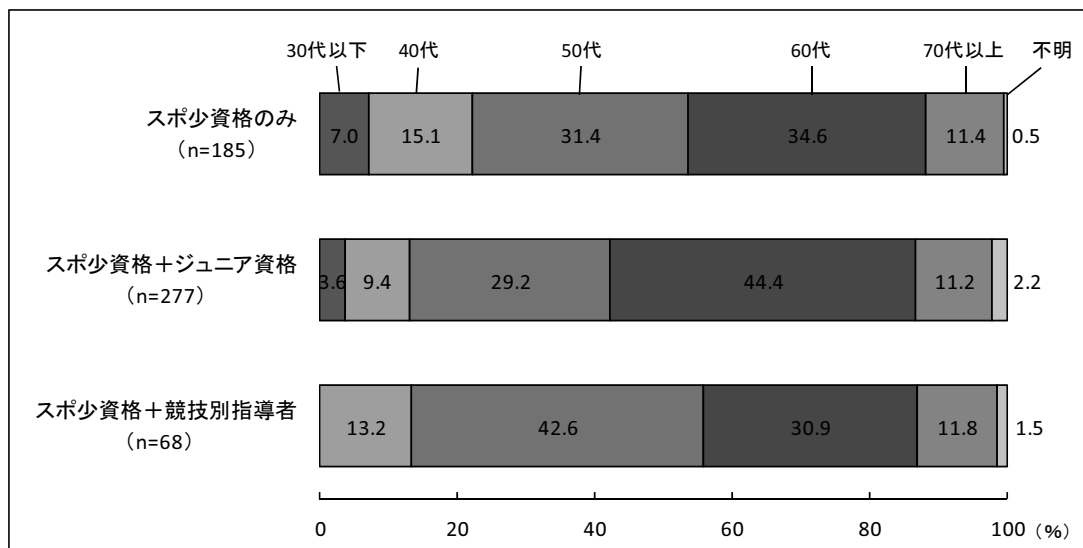


表 3-4 は、取得資格の状況別に子どもの運動・スポーツ指導に期待している効果について「とても当てはまる」「少し当てはまる」の回答をあわせた割合を示したものである。

「学校での体育の成績向上に役立つ」は「スポ少資格＋競技別指導者」が 73.5%と最も多く、次いで「スポ少資格のみ」が 69.2%、「スポ少資格＋ジュニア資格」が 62.1%であり、僅差ではあるが違いがみられた。

図 3-12 から図 3-15 は、子どもの運動・スポーツ指導に期待している効果について「とても当てはまる」と回答し、より強い期待を抱いている者の割合を示したものである。「スポ少資格＋競技別指導者」が「礼儀が身につく」「競技力が向上する」「基本的な運動能力を身につける」「健康な身体を育む」において、他の群よりも高い割合を示している。特に「競技力の向上」「基本的な運動能力の向上」といった技能面により強い期待を抱いていることがうかがえる。また、「スポ少資格＋ジュニア資格」で「競技力の向上」と回答した者が 30.3%であるのに対し、「基本的な運動能力を身につける」と回答した者が 50.2%と半数以上が期待していることがみてとれる。このことから、ジュニア資格を取得している指導者は、子どもの運動・スポーツ指導において、競技力が向上することよりも基本的な運動能力を身につけることに期待を抱く傾向が他の群に比べて強いことがうかがえた。

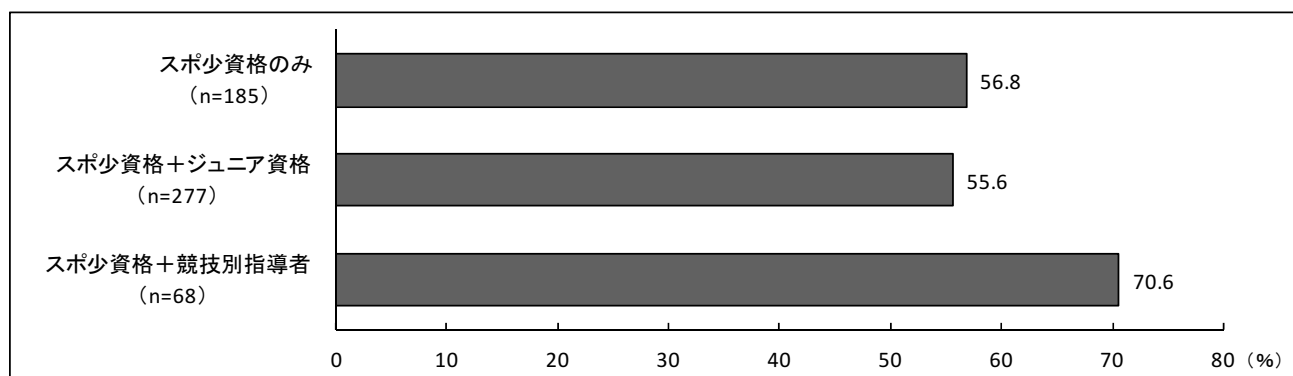
【表 3-4】子どもの運動・スポーツ指導において期待している効果（取得資格別）

(%)

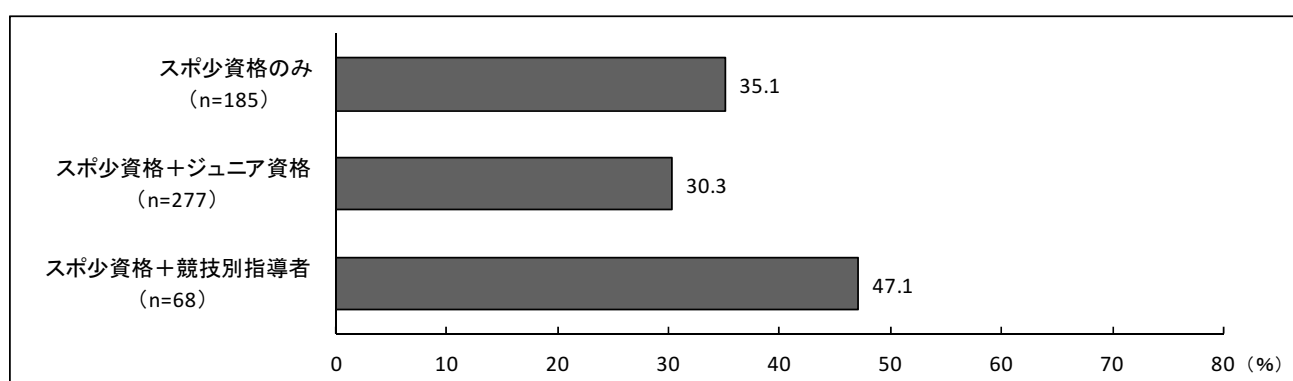
	スポ少資格のみ (n=185)	スポ少資格＋ジュニア資格 (n=277)	スポ少資格＋競技別指導者 (n=68)
礼儀が身につく	95.1	94.2	94.1
精神面が鍛えられる	91.4	88.4	94.1
競技力が向上する	80.5	81.2	86.8
学校での体育の成績向上に役立つ	69.2	62.1	73.5
コミュニケーション能力を養う	84.9	88.4	91.2
運動の楽しさを味わうことができる	90.8	92.1	91.2
運動に進んで取り組む姿勢を養う	87.6	85.9	89.7
仲間ができる	96.8	96.4	98.5
基本的な運動能力を身につける	89.7	91.0	92.6
健康な身体を育む	93.5	93.9	98.5

※「とても当てはまる」「少し当てはまる」の回答をあわせた割合

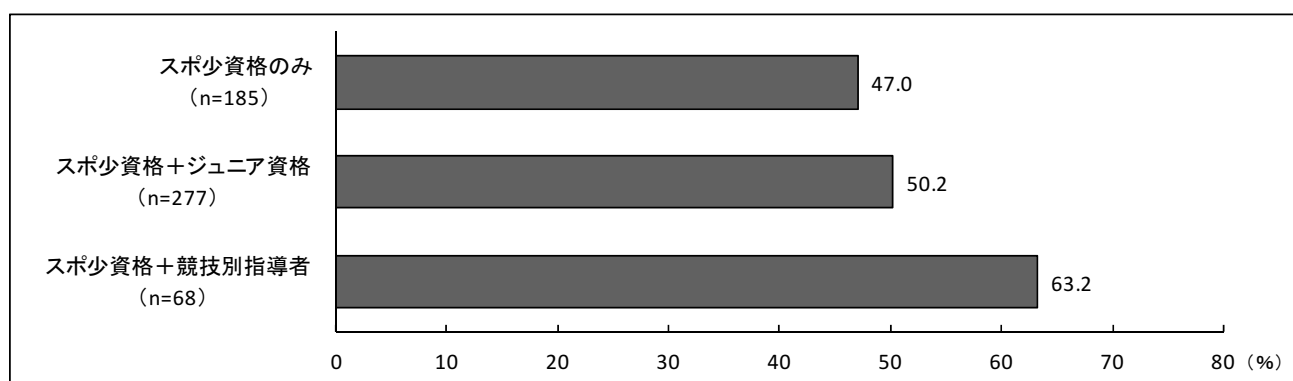
【図 3-12】「礼儀が身につく」を選択した割合（取得資格別）



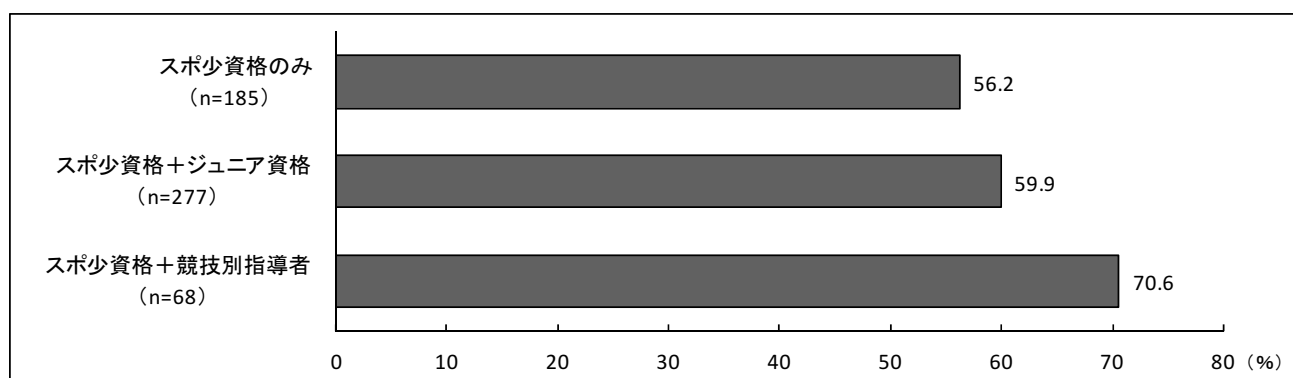
【図 3-13】「競技力が向上する」を選択した割合（取得資格別）



【図 3-14】「基本的な運動能力を身につける」を選択した割合（取得資格別）

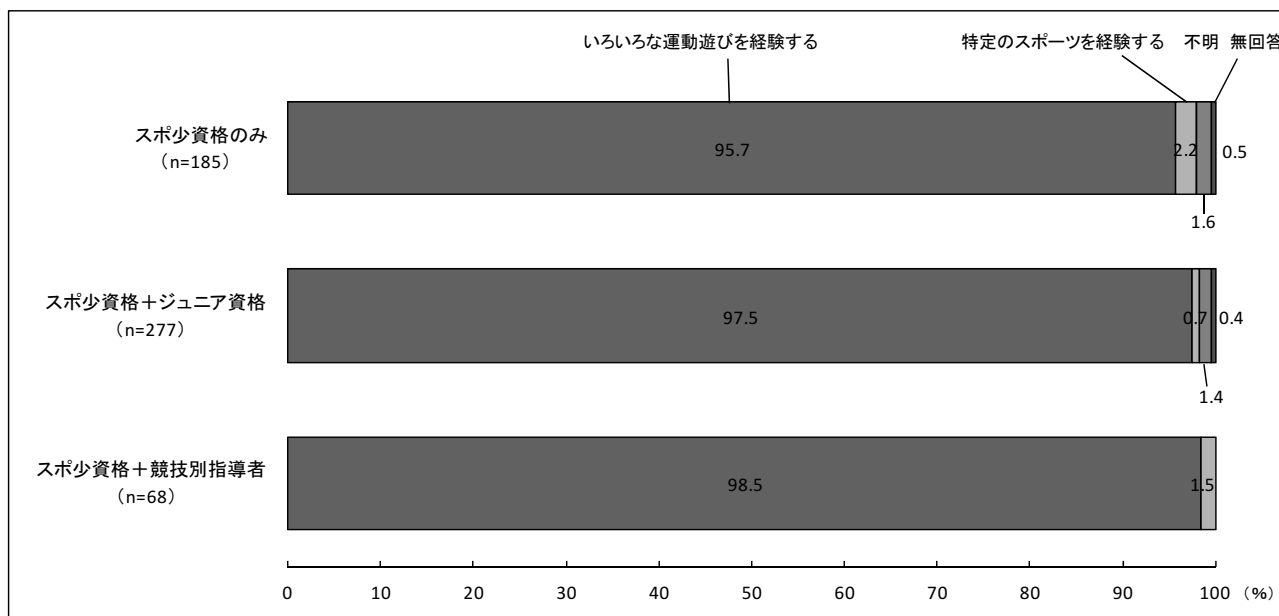


【図 3-15】「健康な身体を育む」を選択した割合（取得資格別）



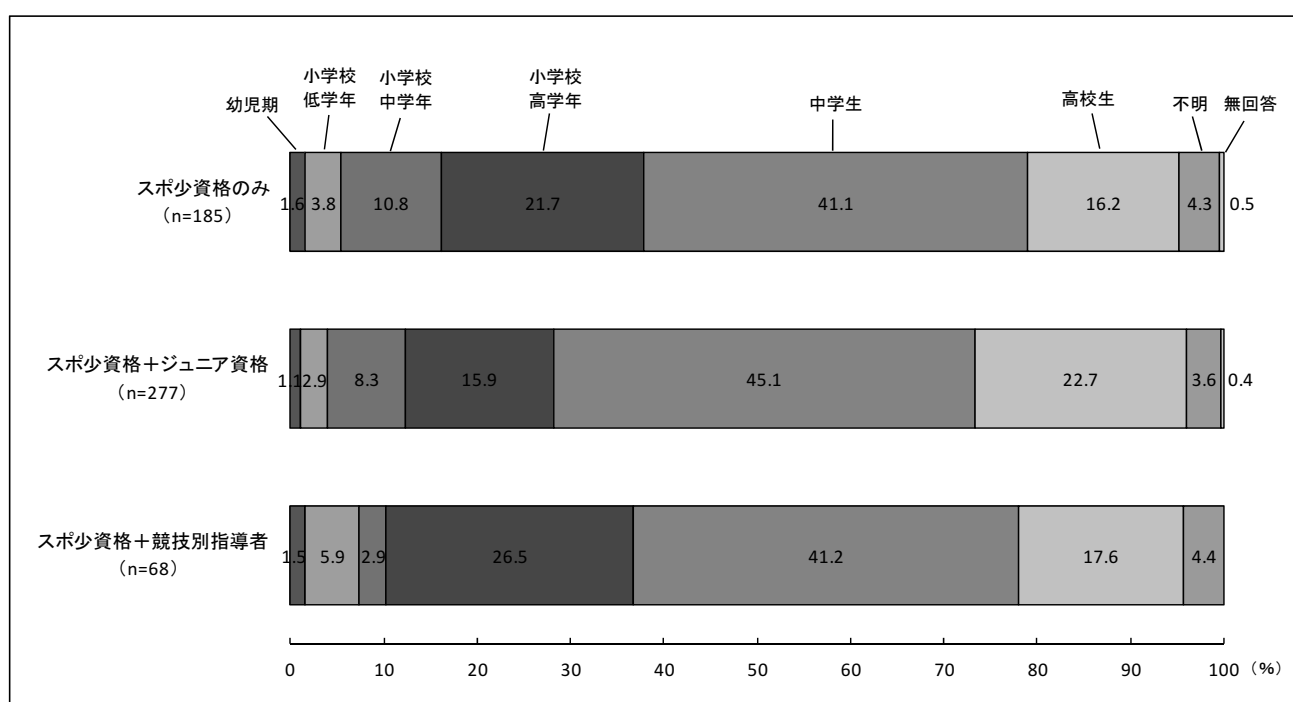
子どもの運動能力向上に関する考えとしては、いずれの群においても「いろいろな遊びを経験する」と回答した割合が 9 割以上を占めており、ほとんどの指導者がいろいろな運動遊びを経験することが体力向上に役立つと考えていることがみてとれた（図 3-16）。

【図 3-16】子どもの運動能力向上に関する考え（取得資格別）



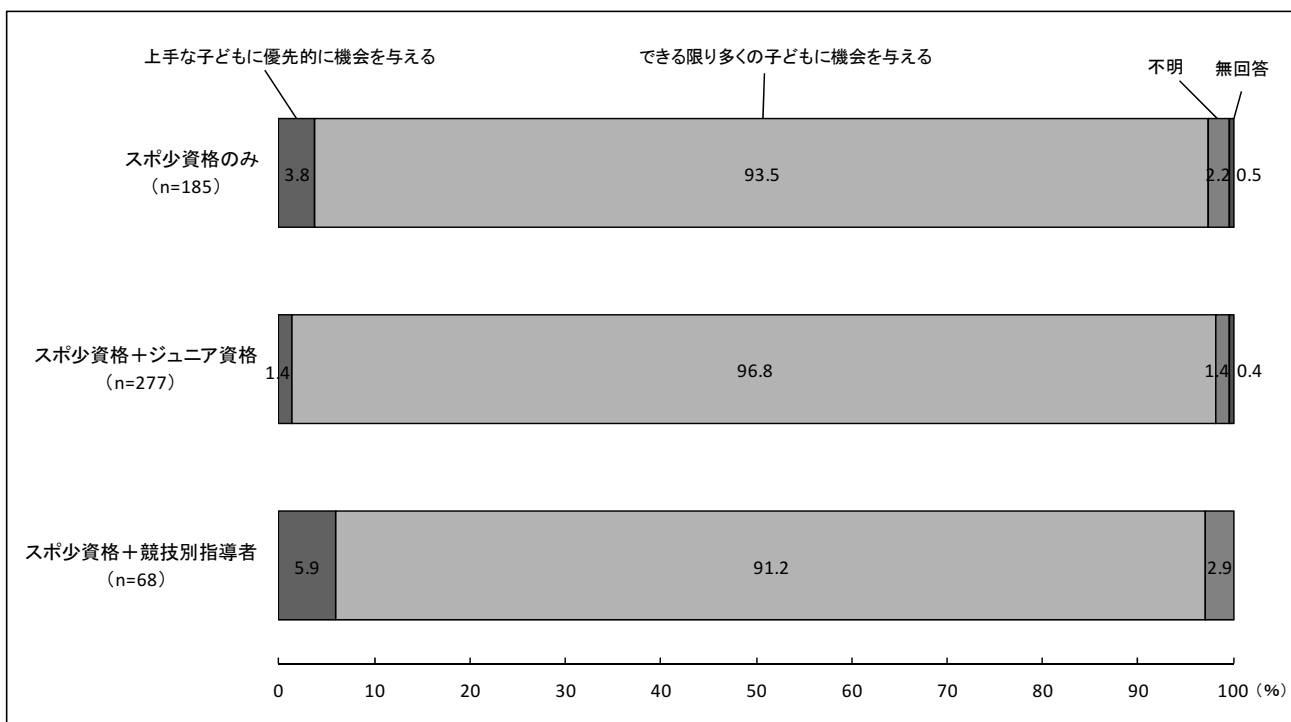
子どもがスポーツ種目をひとつに絞って専門的に行うのに適していると思う時期については、「スポ少資格+ジュニア資格」の指導者は「中学生」「高校生」を選択した割合が他の群に比べて高く、「小学校低学年」「小学校高学年」を選択した割合が他の群に比べて低い(図 3-17)。ジュニア資格を取得している指導者は、他の指導者に比べ、スポーツを専門的に行うのは中学生や高校生になってからのほうが適していると考えられる傾向が示された。

【図 3-17】子どもがスポーツ種目をひとつに絞って行うのに適していると思う時期
(取得資格別)



練習試合を含めた子どもの試合参加についての考えとして、「上手な子どもに優先的に機会を与える」という回答は、ジュニア資格を取得している群は1.4%と「競技別指導者資格」や「スポ少資格のみ」と比べて低い傾向がみられた（図3-18）。子どもの運動・スポーツ指導に期待している効果を先に示したが、ジュニア資格取得群よりも競技別指導者資格取得群のほうが「競技力の向上」に関してより強い期待を抱いていることなどが関係していると思われる。

【図3-18】子どもの試合参加についての考え（取得資格別）



指導者が子どもに運動・スポーツを指導する際に参考に使っているものについて取得資格別にみると、「自分のスポーツ経験」がいずれの群でも最も多く、「スポ少+競技別指導者」は79.4%ととりわけ高い割合を示している（図3-19）。また、「スポ少資格のみ」の群では「取得後に開催される資格に関する研修会等」「専門書や指導参考書等」「機関誌（スポーツジャスト）や資格取得時の講習のテキスト」「指導者同士の自主的な勉強会等」「専門のビデオやDVD」が他の群に比べて低い割合を示している。スポ少資格に加えて、ジュニア資格や競技別指導者資格を取得している指導者は、自らのスポーツ経験のみならず、研修会や指導参考書・DVD等を利用して、子どもの運動・スポーツ指導の参考としていることがうかがえた。

【図3-19】運動・スポーツを指導する際に参考に使っているもの（取得資格別）

